

令和5年度 学校経営報告書（自己評価）

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ア	いじめの根絶 （生徒課・ 管理職）	・いじめの件数0件 ・巡回時の生徒指導 0件 ・ネットパトロール からの指摘0件	・いじめの件数0件 ・巡回時の生徒指導 0件 ・ネットパトロールか らの指摘0件 ・学校は安心して生活 する事ができる場所 だと感じていると答 えた生徒97%。	A	いじめや巡回中の問題行動はなく、生徒 も安心して学校生活を送れている事がア ンケート結果から分かった。 次年度も、生徒にとって、安心・安全な 学校づくりを続けていきたい。
	登下校及び学 校生活中にお ける事故防止 （全教員）	・校内での事故0件 ・登下校時の交通事 故0件	・校内の事故1件 （体育の授業中の怪 我1件） ・登下校時の交通事故 0件	A	体育のバスケットボール中に怪我が1件 あったが、大きな事故はなく、事故防止 に努めることができた。
	防災対策の充 実 （生徒課・ 管理職）	・「防災訓練は大切で ある」と答える生徒 90%以上 ・「家庭で非常時の準 備をしている」と答 える生徒80%以上 ・地域の防災訓練参 加率50%以上 ・39メールの登録率 100%	・防災訓練は大切であ ると答えた生徒97% ・家庭で非常時の準備 をしていると答え た生徒50% ・地域の防災訓練参加 率39% ・39メールの登録率 100%	B	防災訓練の大切さは実感しているものの 非常時の備えや地域防災訓練の参加率に ついては、満足のいく結果ではなかった。 次年度は非常時の準備について具体的に 学ぶ機会を設定していきたい。
イ	挨拶と丁寧な 言葉遣いがで きる （全教員）	・「自ら挨拶すること ができる」と答える 生徒90%以上 ・「誰にでも丁寧な 言葉遣いができる」 と答える生徒90%以 上	・自ら挨拶する事がで きると答えた生徒 100% ・誰にでも丁寧な言葉 遣いができたと答 えた生徒100%	A	アンケート結果からも挨拶や言葉遣いにつ いて、取り組んでいる事がわかる。これ も日ごろからの先生方の声掛けと丁寧 な対応によるものである。ただ、時々行 う事ができたという回答が15%弱であつた ため、次年度はより肯定的な回答が増え るように取り組みを続けたい。
	ソーシャルス キルの育成 （全教員）	・「ソーシャルスキル に関する項目につ いて、身についた」と 答える生徒80%以 上	・ソーシャルスキルに 関する項目につ いて身についたと答 えた生徒100%	A	自分の気持ち伝えたり、相手の気持ちを 察したりといったソーシャルスキルの育 成について1学期は自分の気持ち全く伝 える事ができないと回答した生徒がいた が、2学期のアンケートでは全員が肯定 的な回答をしていた。生徒が安心して自 分の気持ちを表現できる環境づくりを次 年度も続けていきたい。

イ	自己肯定感を高める (全教員)	・自分の強み(良さ)を3つ以上答えられた生徒80%以上 ・「自己肯定感が高まった」と答える生徒80%以上	自分の強み(良さ)を3つ以上答えられた生徒39%(2つ以上答えられた生徒58%) (自立心がある。独創性がある。粘り強く取り組むことができる。の3項目の伸びが大きい。) 自己肯定感が高まった(昨年より自分は成長したり、良くなった)と答えた生徒88%	B	自分の強みを3つ以上答えられた生徒については、目標値をクリアする事はできなかったが、昨年度から自分は成長したと感じている生徒は90%弱であった。次年度以降も継続して支援を行い、全ての生徒が自分は成長したと実感できるように継続して支援を行っていききたい。
	欠席、遅刻を減らす (全教員)	・毎月の出席率95%以上 ・毎日の遅刻平均3人以内 ・寝坊による遅刻、月間10件以内	・毎月の出席率90% ・毎日の遅刻平均1.7人 ・寝坊による遅刻21.6件	B	皆勤者・精勤者は全体の40%であった。欠席したり、遅刻したりする生徒は限られている。しかし、該当生徒は連日欠席や遅刻を繰り返している。保護者と連携をとって生徒の行動の改善に努めているが、保護者自身も対応に困っているケースが少なくなかった。次年度以降も家庭連携し根鉢強い指導を続けていきたい。
	教職員間及び教員と家庭との連携充実 (全教員)	・「データによる情報共有ができた」と答える教職員100% ・「常時、生徒及び家庭との情報共有できた」と答える教員90%以上 ・行事等の記事を1週間以内にホームページに掲載できた。 ・行事等について、事前に39メールで配信できた	・「データによる情報共有ができた」と答えた教職員100% ・「常時、生徒及び家庭との情報共有できた」と答える教員90% ・本年度より公式X(旧Twitter)を運用したことで、学校行事などの記事を速やかにホームページに掲載することができた。	A	教員間及び教員と家庭との連携は必要十分に行っていた。 必要に応じて39メールの配信を行ったが、登録してあるメールアドレスの個人が特定できないため次年度からは全日制と合わせてC-learningを利用していきたい。
	法律及び校内ルールの遵守の徹底 (生徒課)	・「校内ルールを守ることができた」と答える生徒80%以上	・校内ルールを守る事ができたと答えた生徒97% ・問題行動による生徒指導1件(原動機付き自転車の無許可通学)	A	問題行動による生徒指導が1件起きてしまったが、該当生徒は指導後前向きに学校生活を送るようになった。生徒がより良い方向に進むような支援を今後も継続していきたい。

様式第3号

ウ	小中学校の学習の学び直し (全教員)	・授業内容を精選し、小中学校の振り返りを取れ入れた工夫した授業ができたと答える教員 100% ・「中学校時より学力が向上した」と答える 1 年 生 100% ・「T T により、理解が深まった」と答える 1 年生 100%	・授業内容を精選し、小中学校の振り返りを取り入れた工夫した授業ができたと答えた教員 100% ・中学校時より学力が向上したと答えた 1 年生 100% ・数学 I の授業で T T により分かりやすかったと答えた 1 年生 100% ・授業の内容が全く理解できないと答えた生徒 0%	A	高等学校の学習内容が定着するように生徒の実態に合わせて学習内容を精選して授業を行うことができた。その結果授業内容が全く理解できないと答えた生徒は 0% であった。生徒もやればできるという経験をするため、学期が進むごとに学習に前向きに取り組んで聞く生徒の割合が増えていった。 この取り組みは次年度も継続していきたい。
	多様性に対応した個別最適な学びの実践 (全教員)	・一人一台端末を活用することができたと答える教員 100% ・I C T を活用した授業を研究し、実践したと答える教員 100% ・一人一台端末を活用することにより、学力が向上したと答える生徒 80% 以上	・タブレット端末を活用する事ができたと答えた教員 100% ・I C T を活用した授業を研究し、実践したと答えた教員 100% ・タブレットを活用する事で学力が向上したと答ええる生徒 91%	A	本年度から一人一台のタブレットを貸与することができた。それらを利用して、毎日の健康観察や授業の資料の配布、小テストの実施、英作文の作成などを行うことができた。次年度以降もこれらの取り組みを継続していきたい。
エ	授業力の向上 (若手教員) ※キャリアステージが基礎向上期以前の教員	・学期に 2 回は、授業参観したと答える教員 100% ・年に 1 回は、研究授業を実施したと答える教員 100% ・前年より授業力が向上したと答える教員 100%	・学期に 2 回以上授業参観した若手教員 100% ・年に 1 回は研究授業を実践したと答えた若手教員 100% ・前年より授業力が向上したと答えた若手教員 100%	A	全ての若手教員が学期に 2 回以上の授業参観を行った。 各若手教員が目標設定をして授業力の向上に努めた。具体的には、生徒の現状に合わせた授業の展開、I C T を活用した授業デザインの構築、アクティブラーニング型授業実践などが行えるようになった。
	観点別評価の実践 (全教員)	・「観点別評価を理解し、実施することができた」と答える教員 100%	・観点別学習評価を理解し、実施したと答えた教員 100%	B	評価基準の設定などで課題感を感じながら試行錯誤しながら取り組んだ 1 年であった。公平・公正な評価が行えるように取り組みを継続していきたい。

様式第3号

オ	スクールカウンセラー（SC）と連携強化 （生徒課・管理職）	・「SCを利用したことにより状況が改善した」と答える生徒 80%以上 ・「SCを利用したことにより生徒の様子が改善した」と答える教職員 80%以上	・SCを利用した事により状況が改善した。と答えた生徒 100% ・SCを利用したことにより生徒の様子が改善したと答えた教職員 90%	A	定期的にスクールカウンセラーと面談をする環境がある事は生徒のメンタルサポートの助けになっている事がアンケート結果から見て取れた。次年度以降もこの取り組みを継続したい。
カ	キャリア教育の充実 （教務課）	・SPI試験対策の小テストの結果、平均 60 点以上 ・講演会を聞いて、自身のキャリアについて考えるようになった」と答える生徒 80%以上 ・自分の希望する進路が実現できたと答える卒業生 100% ・授業の中にキャリア教育を取り入れたと答える教員 100%	・SPI試験対策の小テストの平均点 53 点 ・講演会を聞いて自身のキャリアについて考えるようになったと答えた生徒 87% ・自分の希望する進路が実現できたと答える卒業生 83%(17%進路が未決定) ・授業中にキャリア教育を取り入れたと答えた教員 43%	B	講演会を開くことは生徒がキャリア形成について考える良い機会になっており、この取り組みは次年度以降も継続・発展させていきたい。授業の中にキャリア教育を取り入れた教員が多くなかったため、次年度はキャリア教育について研修の機会を設けたい。
キ	休暇取得の推進 （全教員）	・夏季休暇取得率 100% ・年休取得率 30%以上	・夏季休暇取得率 100% ・年休取得率 60%	A	業務の効率化が図られた結果、夏季休業取得率、年休取得率ともに目標値をクリアすることができた。
	退勤時間の厳守 （全教員）	・月間の超過勤務時間平均 20 時間未満	月間の超過勤務時間平均 18 時間 24 分	A	職員室完全退出の時刻は概ね守られていた。そのため、月間の超過勤務時間の平均値の目標値をクリアすることができた。
	業務の削減及び見直しの推進 （全教員）	・会議資料のペーパーレス化 100% ・各分掌の業務、1 つ以上削減 ・各教職員の業務、1 つ以上削減	・会議資料のペーパーレス化 100% ・各分掌の業務、1 つ以上削減 ・各教職員の業務、1 つ以上削減	A	GoogleWorkSpace を活用して、事務処理の効率化を測った。生徒会誌の構成を業者に委託した。体育大会の準備の工夫をするなどして業務の効率を行った。
ク	事務室運営の効率化	・1 件以上の業務改善実施	・学校徴収金のインターネットバンキング導入及び証明書発行事務の簡素化。	B	担当者発案による業務改善を進めることができた。

ク	法令順守の徹底	・物品（修繕）要求書提出の徹底とすみやかな会計処理を行う。 ・学年費等の決算報告書類等は、わかりやすい文書の作成に努め、残金等は迅速な返金処理等を行う。 ・個人情報の適正な保管により紛失及び漏洩事故ゼロ	・物品要求書提出は、ほぼ徹底できた。 ・県費及び学校徴収金会計についても、適正に処理できている。 ・県費及び学校徴収金会計についても、適正に処理できている。 ・学校徴収金会計の返金処理（転出・退学者）について、すみやかに対応できた。これから決算処理があるが、迅速な処理等を行う。 ・個人情報の紛失及び漏洩事故は、起きていない。	B	物品要求書提出の徹底により、事業仕分けによる会計処理を推進できたと考える。 学校徴収金会計の適正処理が行われ、すみやかな返金処理ができている。 物品等の値上げ等により、来年度の給食費・修学旅行積立等（受益者負担会計）の徴収額増加が見込まれる。費用対効果等により執行見直しするなどし、これ以上の徴収額の抑制を検討する必要がある。 適正に管理できていることから、これを維持していく。
	安全安心な教育環境の維持	・月2回以上の施設点検と法令点検指摘箇所のすみやかな改修を行う。 ・解体工事にかかる騒音等の対応について、的確な校内調整を図る。	・定期点検や法令点検での指摘箇所は、安全性を考慮した優先順位により改修を進めた。 ・解体工事については、事故等もなく順調に推移している。	B	解体工事及びその跡地整備は、令和6年10月には終了予定である。 跡地は、グラウンドとなるが防球ネット等付帯施設は今回の工事に含まれていないので、今後も県教委に整備をお願いする必要がある。

令和5年度 学校関係者評価実施用紙（まとめ用）

学校番号	31	学 校 名	静岡県立清水東高等学校 定時制の課程	記 載 者	井 島 秀 樹
------	----	-------	-----------------------	-------	---------

	取組目標	成果目標	自己 評価	関係者 評価	意 見
ア	いじめの根絶	・いじめの件数0件 ・巡回時の生徒指導0件 ・ネットパトロールからの指摘0件	A	A	いじめ件数0、学校が安心97%の実績は素晴らしい。いじめや問題行動がなく、平穏であることが何よりである。いじめがいかに卑劣なことを徹底して指導しておられる結果で、素晴らしい。
イ	挨拶と丁寧な言葉遣いができる	・「自ら挨拶することができる」と答える生徒90%以上 ・「誰にでも丁寧な言葉遣いができる」と答える生徒90%以上	A	A	アンケート結果が大変良好なのは先生方の日頃の指導の成果だと感じる。挨拶や丁寧な言葉遣いは基本なので、概ねできていて安心した。挨拶と丁寧な言葉遣いは、人の第一印象を形成するので、この割合はとても喜ばしいものである。そして何よりも、他者からの丁寧な言葉で接しられたときの喜び、うれしさを感じて欲しい。
	ソーシャルスキルの育成	・「ソーシャルスキルに関する項目について、身についた」と答える生徒80%以上	A	A	肯定的な回答が増えていくのは指導の成果が現れている。卒業してすぐ社会に出る生徒のためにも、ソーシャルスキルを身に付けさせることは大切である。多くの生徒が「スキルが身についた」と感じていて感心した。

様式第5号

	自己肯定感を高める	・自分の強み(良き)を3つ以上答えられる生徒80%以上 ・「自己肯定感が高まった」と答える生徒80%以上	B	A	数値目標の未達よりも、以前との比較で自己肯定感が高まっていることを重視したい。まず自分の強みを意識し、自己管理の下で弱点も受け入れる、そして自己肯定感をもつようになる。大人の世界でもそのまま通用する。
	欠席、遅刻を減らす	・毎月の出席率 95%以上 ・毎日の遅刻平均 3 人以内 ・寝坊による遅刻、月間10件以内	B	B	皆勤は必須ではないにしろ、遅刻平均1.7人は立派な成果だと思う。根気が必要ですが、引き続き欠席や遅刻の指導をお願いしたい。
ウ	多様性に対応した個別最適な学びの実践	・一人一台端末を活用することができたと答える教員 100% ・I C Tを活用した授業を研究し、実践したと答える教員 100% ・一人一台端末を活用することにより、学力が向上したと答える生徒80%以上	A	A	一人一台端末が実現したこと、タブレットによる学力向上が認められることは大きな成果だと思います。ICTの活用が100%というのはすばらしい。今後も生徒に生きる力が身につくような活用をお願いしたい。殆ど全員の生徒がスマホを携帯しているのではないかと思いますので、ICTを活用した授業には、生徒は何のためらい無く入って行けるのではないかと。それによって学力の向上を感じられるなら、どんどん活用すべきである。
エ	観点別評価の実践	・「観点別評価を理解し、実施することができた」と答える教員100%	B	B	観点別評価の実施については難しい面もあるかと思っています。継続しての努力をお願いします

様式第 5 号

オ	スクールカウンセラー（ＳＣ）と連携強化	・「ＳＣを利用したことにより状況が改善した」と答える生徒 80％以上 ・「ＳＣを利用したことにより生徒の様子が改善した」と答える教職員 80％以上	A	A	利用による状況改善が生徒100％・教師90％は素晴らしい。新宿夜のトーヨコの記事を見るたびに、子供たちは、話し相手、話を聞いてくれる大人を心底では求めていると思う。SCが配置され活用されている様子が伺えます。今後ますます必要性が高まるものと思われます。
カ	キャリア教育の充実	・ＳＰＩ試験対策の小テストの結果、平均 60 点以上 ・講演会を聞いて、自身のキャリアについて考えるようになった」と答える生徒 80％以上 ・自分の希望する進路が実現できたと答える卒業生 100％ ・授業の中にキャリア教育を取り入れたと答える教員100％	B	A	3名の未決定者とのことですが、全員が進路を見据えた姿勢は評価できると思います。キャリア教育の継続をお願いします。世の中には様々な人がいて、様々なことをしている。そしてそれを発表してくれる。中には埋もれている人でも、すごい人がいる。要するに社会そのものを会得してもらうことは、素晴らしい教育だと思う。生徒が自分自身の適性を見つめ、将来を考えることはとても大切なことだと思います。引き続きのご指導をお願いします。

様式第 5 号

キ	退勤時間の厳守	・月間の超過勤務時間平均20時間未満	A	A	超過勤務時間が少ないよう で安心しました。教職員 の健康管理には、これ からも気をつけて欲し い。月間の超過勤務時間 が18時間24分とのこと で、目標はクリアされて いる。勤務時間外は、是 非とも自分と家族の心の 栄養ために使われんこと を切望する。業務のこと を考えては元の木阿弥で ある。
---	---------	--------------------	---	---	---